

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18500694

研究課題名 (和文) 開発で失われた地質情報の収集・公開・教材化

研究課題名 (英文) Collecting Geological Information Lost by Development, and Providing through Internet as Teaching Material

研究代表者

笠間 友博

神奈川県立生命の星・地球博物館

研究者番号：70392991

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学

キーワード：自然科学教育，地学教育

## 1. 研究計画の概要

神奈川県の台地や丘陵地域は、開発が進み、今やほとんどが住宅地となっている。多くの人口をかかえ、学校も多いこれらの地域では、地層を具体的に観察する露頭は既に無くなっている。

そこで、これらの地域が開発される前、または開発中に撮影された地質情報を伝える写真を収集し、インターネットで公開し、教材としても地域の学校で役立ててもらうことを計画した。

これらの地域の地質・テフラに関しては、古くから研究が行われているが、氷河性海面変動の影響を受けて非常に複雑であり、写真に写る地質情報は、その都度詳細な検討が必要になる。

そこで、収集した写真を細かく検討し、多摩丘陵露頭集および神奈川県テフラ写真集を作成することにした。

## 2. 研究の進捗状況

4年計画の3年が過ぎ、神奈川県テフラ写真集はおおむね完成し、一部は既に神奈川県立生命の星・地球博物館の電子百科・神奈川の自然・関東ローム層で公開している。これには教材として重要な地図情報がないので現在、地図上から検索できる別のデータベースを作成中である。

多摩丘陵露頭集は、収集で見つかった他地域の露頭も合わせ現在、地図上から検索するデータベースを作成している段階である。

## 3. 現在までの達成度

テフラについてはほぼ完成、露頭についても順調に進行しているので。

## 4. 今後の研究の推進方策

今回の研究で露頭データベース化のルー

チンが完成した。今後、別の機会があればさらに、多様なデータベースが構築可能である。ただし、当初予定した一般市民からの地質情報写真はなかなか有用なものが得られなかった。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

笠間友博・山下浩之，箱根火山起源テフラ資料、露頭写真のデータベース，神奈川県立博物館調査研究報告自然科学，査読なし，no.13，2008，219 - 236．

笠間友博・山下浩之，箱根火山岩石・テフラデータベースの構築とジオパークへの活用，月刊地球，査読なし，Vol.31，2009，125 - 131．

〔学会発表〕(計 1件)

笠間友博・平田大二・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子，博物館による消失露頭の写真データベース化・教材化，日本地質学会 114 年学術大会，北海道大学，2007．

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0件)

取得状況 (計 0件)

〔その他〕

データベース (計 2件)

神奈川県立生命の星・地球博物館 電子百科，神奈川の自然，関東ローム層，公開中 <http://nh.kanagawa-museum.jp/sizen/menu.html>

箱根火テフラデータベース，神奈川県立博物館調査研究報告自然科学，no.13 付属 DVD，2008，配布中．